

1月給食だより

令和8年 1月号
天草市立栖本学校給食センター

あけましておめでとうございます

新年を迎え、気持ちも新たに3学期が始まりました。冬休み中に生活リズムが乱れてしまった人はいませんか？寒くて起きるのがつらい時期ですが、早寝・早起きをし、朝ごはんを食べて元気に登校しましょう。

今年(とし)はうま年！



うまのように野菜を
たっぷり食べよう！



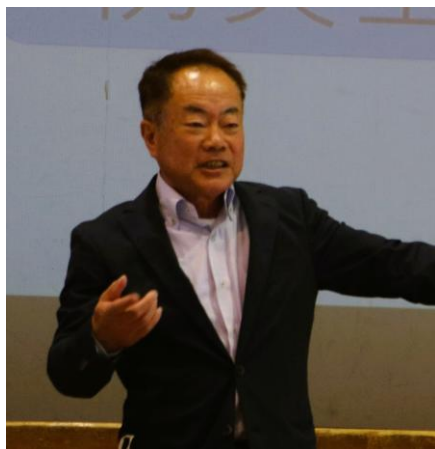
箸をうまく使いこなして
きれいに食べよう！



よく味わってうま味
を感じよう！

天草のおいしい食材をつかいます！

天草のおいしい食材
すもとまち 栖本町 渡邊 享 さんの『ぽんかん』

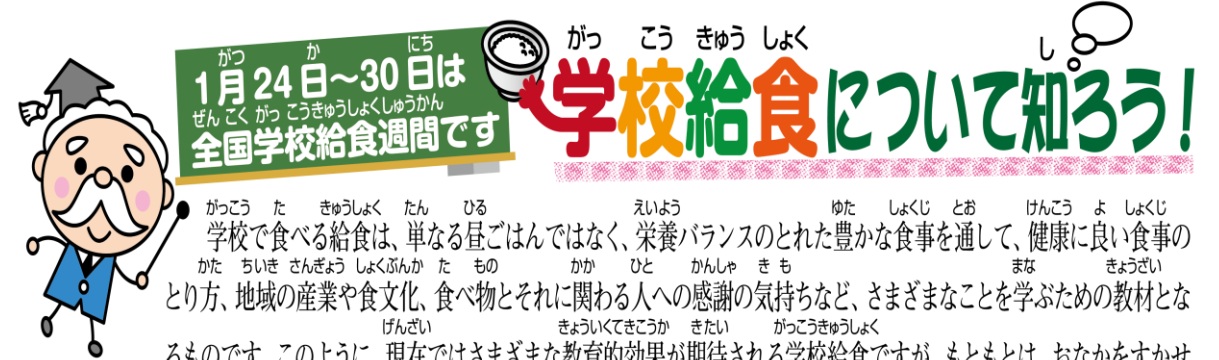


栖本町の渡邊さんが育てた、ぽんかんが給食に登場します。

〈渡邊さんに質問してきました！！〉

ぽんかん畑は、なんと、プール4個分ぐらいの畑で作っておられるそうです。また、ぽんかんを甘くするために、枝剪定をして、日が当たる工夫や水分不足にならないよう、根っこの周りに、わらを敷いて土の蒸発を防ぐなどの工夫をされることで、甘いぽんかんができるそうです。

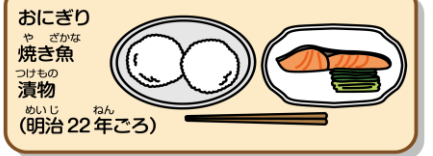
楽しみにしていて下さいね。



学校で食べる給食は、単なる昼ごはんではなく、栄養バランスのとれた豊かな食事を通して、健康に良い食事のとり方、地域の産業や食文化、食べ物とそれに関わる人への感謝の気持ちなど、さまざまなことを学ぶための教材となるものです。このように、現在ではさまざまな教育的効果が期待される学校給食ですが、もともとは、おなかをすかせた子どもたちのために、学校で昼ごはんを提供したことが始まりでした。学校給食がたどった歩みを見てみましょう。

学校給食の始まり

明治22(1889)年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちへ食事を提供したのが始まりとされています。この学校は大督寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが家々を回ってお経を唱え、いただいたお金や食べ物を使って食事を用意していました。大正12(1923)年には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励されるなど、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止せざるを得なくなってしまいました。



支援物資による学校給食の再開

戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和21(1946)年12月24日にLARA(アジア救援公認団体)から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月に学校給食が再開されました。当初は12月24日を「学校給食感謝の日」としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。



バラエティー豊かな献立内容に

昭和29(1954)年に「学校給食法」が成立したことで、実施体制が法的に整い、学校給食は教育活動として位置付けられるようになりました。主食はパンが中心でしたが、昭和51年に米飯(ご飯)が正式に導入されると、カレーライスや炊き込みご飯などが登場し、献立内容が充実していきました。

